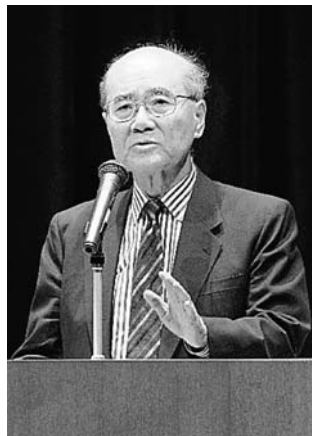


感性育む景観を守れ

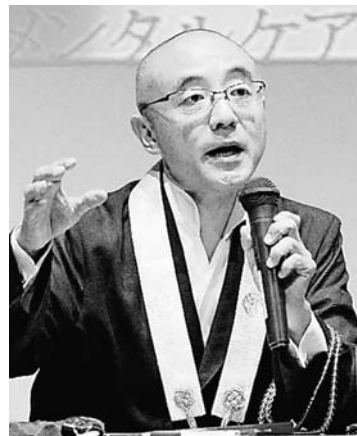


「浜辺の歌」などを奏する東儀秀樹さん



秋尾 「借景」、景観を借りるというの、いかにも日本的な奥ゆかしい表現だと思います。自分の所有物でない景観を守る苦勞は、並大抵でないでしょう。神居 平等院が世界遺産に登録されて

前ユネスコ事務局長 松浦晃一郎さん



平等院住職 神居文彰さん

パネル討論

人々の営みとの調和大切 神居

小川 借景として取り入れた山の姿が変わることも悩ましい問題です。南禅寺周辺の別荘群には、明治時代の元勳山県有朋の別邸無鄰菴(左京区)をはじめ、七代目小川治兵衛が手掛けた庭園が多数あります。七代目は庭にもマツを植え、東山のアカマツ林と連続した景色を生み出しました。ところがマツ枯れなどの影響で東山のアカマツ林が激減し、連続性が損なわれています。マツ枯れが庭園内にも広がれば、庭の姿も変えかねません。あらためて庭園と自然とのつながりの深

から、鳳凰堂の背後に2棟の高層マンションが建てられました。マンションから目線をすらすらため樹木を植えました。消化できない思いは今も残っています。鳳凰堂は極楽浄土を表現したものです。平安時代のわらべ歌にも、平等院に行くと拝めば極楽を体感できると歌われました。修復中だった聖観音菩薩立像が、制作当初は死者を迎える来迎菩薩として作られた可能性が高いという調査結果は、つい先日報道されたばかりです。北園 京都市内でも市街地の拡大により庭園からの眺めが失われ、借景庭園が台無しになった例は枚挙にいとまがありません。円通寺の庭は比叡山を借景としています。良好な眺めを守るため、私は四十数年前から景観法の必要性を訴えてきました。高層ビル建設の計画を聞き、低くしてくれるよう頼みに行ったり、大規模開発の許可が下りた土地を、宅地として購入される前に購入したことをええります。京都市が規制を強化したことで、数十年後、借景庭園として美しくよみがえる寺社が出てくることを願っています。



円通寺住職 北園文英さん

音のデザイナーら参加を 北園



借景について意見が交わされたパネル討論(10月9日、京都市中京区・立命館大朱雀キャンパスホール)＝撮影・安達雅文

秋尾 東京には高層ビルを借景として取り入れたのかと思うような庭園も少なくありません。かがえのない京都の景観眺望を守るため、今からでもできることは何だとお考えですか。神居 東日本大震災後、巨大地震の建設を巡り、住民の意見が二分される地域も出ています。地震や台風など自然災害の発生しやすい日本で、安全安心と景観が両立した都市づくりを考えると、容易でないでしょう。しかし無二のものに目にするものだけでなく、時間の積み重ねの中で心に深く刻まれるものもあります。高さやデザインの規制だけでなく、全体として、人々の営みとも調和した景観をつくっていくことが大切なのではないでしょうか。小川 重機がなかった時代の庭造りは、費やす時間もエネルギーも今とは比べものにならないはずですが、自然の景色を身近に置きたかった、自然と一体になりたいという思いがそれだけ強かったと



作庭家 植治次期十二代 小川勝章さん

庭と連続性失うマツ枯れ 小川

北園 スタジオジブリ制作の映画「耳をすませば」で背景画として使われた借景庭園は、画家の井直久氏が円通寺で受けた感動をもとに描かれたもので、優れた景観は創造の原動力とも言えます。優れた景観は創造の原動力とも言えます。過言ではないでしょう。建築の世界でも分業化・専門化は進んでいるようですが、「明日の京都」長期ビジョンを考えると建築家だけでなく、ランドスケープ(景観)、サウンドスケープ(音の風景)のデザイナーも共に知恵を出し合うことを切望します。秋尾 世の中がグローバル化するほど京都は意味を持つ都市です。次世代の豊かな感性を育むためにも、京都には京都らしい景観を守り、世界に発信していくべきだと思います。



コディネーター 秋尾沙戸子さん

明日の京都 第7回フォーラム 「古都の借景」

世界遺産「古都京都の文化財」の17寺・城や大学などでつくる「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」(松浦晃一郎会長)が主催する第7回フォーラム「古都の借景」がこのほど、京都市中京区の立命館大朱雀キャンパスで開かれた。基調講演で尼崎博正・京都造形芸術大学教授が、借景の概念が成立した歴史的背景を解説。パネル討論では景観を守る取り組み事例が紹介された。討論に先立ち、雅楽師の東儀秀樹さんによるトークと華楽や笙の演奏も行われた。

基調講演「借景の諸相」



京都造形芸術大学教授 尼崎博正さん

「借景」という言葉が中国最古の造園理論書「園冶」で用いられたのは17世紀。日本で紹介されたのは19世紀です。しかし、眺望が日本庭園の重要な要素であることは早くから認識されていました。平安時代の

眺望対象の意識化 14世紀ごろから

歴史物語『今鏡』によると、日本最古の造園書『作庭記』を編んだとされる橋本綱は鳥羽離宮を地形が凡庸で眺望がないと酷評しています。このとき、俊綱が名園として挙げたという説もある平等院(宇治市)では、宇治川と朝日山の雄大な景色が望めました。江戸時代、桂離宮(京都市西京区)に招かれた南禅寺(左京区)の金地院崇伝は扁額「桂亭記」で、比叡山から東山、桂川の流れや松尾大社(西京区)の聲まで望めることを挙げ、称賛しています。周辺の景観と庭を一体のものとして捉える空間認識

が受け継がれてきたことをうかがわせます。周辺の景色を眺望するだけでなく、嵐山に桜を植え、天龍寺(右京区)から観賞するよう眺望対象の意識化が始まるのは14世紀ごろです。芸術家の岡本太郎氏は著書『日本の伝統』で、借景を「自然と反自然の要素を対立のまま結合する」技術だと述べています。借景という言葉は使わずとも、その技術が確立したと考えられるのは17世紀後半に創建された円通寺(左京区)です。茶の湯が完成し煎茶道が成立した江戸時代は、茶庭の特定場所から外の景色を見せ

たり、野外で喫茶を楽しんだり、自然との向き合い方が模索されました。近代になると、視覚に加え、鐘の音や鳥の鳴き声など聴覚も借景の要素として捉えられるようになります。南禅寺周辺の庭園群で自然景観の一体化を試みたのは、七代目小川治兵衛です。日本では、自然と調和型の借景が受け入れられてきました。京都市の新景観政策施行から10年。円通寺など38カ所が眺望景観保全地域として指定され、周囲の建築物の高さや色、デザインが規制されました。しかし、規制だけでは効果も限定的です。人の営みと自然との関わりはどうかあるべきか、根源的な問い掛けをすべき時期が来ているのではないのでしょうか。

明日の京都 文化遺産プラットフォーム

明日の京都 文化遺産プラットフォームでは、大切な文化遺産を未来に継承していくために様々な団体、大学、文化財所有者、行政等と連携して、事業を展開しています。

是非、その他の取組みもホームページ、フェイスブック等をご覧ください。

明日の京都文化

HP <http://tomorrows-kyoto.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/tomorrows.kyoto>

「京都の文化遺産で学生を育て、明日を切り拓く人材を育成する」をコンセプトに、明日の京都文化遺産プラットフォームは公益財団法人 大学コンソーシアム京都と協定を締結し、世界遺産を舞台に学ぶ京都世界遺産PBL※科目の開設をしています。大学のまち「京都」、歴史のあるまち「京都」。京都だからこそできる学びが、この科目に凝縮されています。明日の京都 文化遺産プラットフォームでは、引き続き本講座の運営に協力し、人材育成に寄与していきます。 ※PBL(Project Based Learning) = 課題発見・解決型学習と訳される能動的学習方法

<p>清水寺 × 立命館大学</p> <p>外国人観光客のための清水寺参詣茶室(現代版)</p>	<p>清水寺 × 立命館大学</p> <p>京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み</p>	<p>二条城 × 同志社大学</p> <p>O2O(Online to Offline) マーケティングの手法から地域活性化の「仕掛け」を創り出す</p>	<p>仁和寺 × 立命館大学</p> <p>学生・地域・世界がつながり、仁和寺の魅力を高めるには?</p>
<p>上賀茂神社 × 京都産業大学</p> <p>上賀茂神社の行事の魅力を生きた学生の視点で発信する</p>	<p>比叡山延暦寺 × 京都文教大学</p> <p>「お山」の魅力を探る・伝える</p>	<p>醍醐寺 × 京都橘大学</p> <p>醍醐寺の資産を調査・調査しパブリックな取り組みへの提案を模索する</p>	<p>醍醐寺 × 龍谷大学</p> <p>語りから未来を紡ぐ醍醐寺・住民・学生の3者協働</p>

平安京羅城門復元模型

JR京都駅の北口に、平安京の象徴であった羅城門10分の1復元模型を設置しています。この模型は平安遷都1200年の記念事業として、1994年に宮大工たちの技術の粋を集めて製作され、昨年11月に京都駅北口へ移設・展示をしたものです。京都を訪れた人々に京都の母体となった平安京に興味を抱いてもらい、日本の歴史・文化を理解する糸口となって頂きたい、と私たちは考えます。夕刻には、美しく鮮やかにライトアップされた羅城門復元模型。是非、皆さんご覧ください。